

ちがいを豊かさに

～多文化共生社会“かながわ”に向けた人づくり・地域づくり～



多文化理解

国際教育

講師を無料で
派遣しました。



実施方法

オンライン

対面

ハイブリッド

講演会やワークショップなど、国際的に活躍する講師・留学生を講師として派遣した授業の2024年度の実施レポートです。
是非ご活用ください。

もくじ

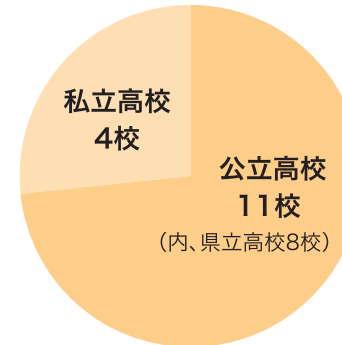
2024(令和6)年度の実施レポート(概要).....	3
個別報告 15校分(実施順).....	4
① 関東学院六浦高等学校	⑨ 川崎市立橘高等学校
② 神奈川県立有馬高等学校	⑩ 神奈川県立橋本高等学校
③ 神奈川県立霧が丘高等学校	⑪ 向上高等学校
④ 神奈川県立川崎北高等学校	⑫ 神奈川県立城郷高等学校
⑤ 横浜市立横浜商業高等学校	⑬ 神奈川県立横浜氷取沢高等学校
⑥ 神奈川県立松陽高等学校	⑭ 横浜市立みなと総合高等学校
⑦ 横浜清風高等学校	⑮ 横浜創学館高等学校
⑧ 神奈川県立金井高等学校	
先生方のご感想.....	34
これまでの実施校一覧.....	36
これまでのゲストの方々の繋がりのある国・地域一覧.....	37
講師紹介.....	38
部活動等へのお手伝い.....	40

かながわ国際交流財団(KIF)は、
 「世界に開かれた神奈川、世界と結ぶ神奈川」を目指し、
 グローバルな視野を持ち、共生社会をつくる人材の育成や、
 県内における多文化共生の推進などを目的とした
 事業を展開する神奈川県所管の公益法人です。
 そして第3期中期計画(2021-2025年度)の基本目標として
 「ちがいを豊かさへ～多文化共生社会“かながわ”に向けた
 人づくり・地域づくり」を掲げています。
 一人でも多くの青少年が、
 異なる国の文化や状況について関心を持ち「世界の入口」に立ち、
 また、多様な文化や言語をもつ人々と、
 より密接に関わり共生していけるよう、
 各種プログラムの企画相談・講師派遣を通じて、
 高等学校等の国際教育をサポートしています。



2024(令和6)年度の実施レポート

■実施件数



実施総数…15
 派遣授業に出席した高校生の人数…2647人

■派遣授業に出席した高校生の学年

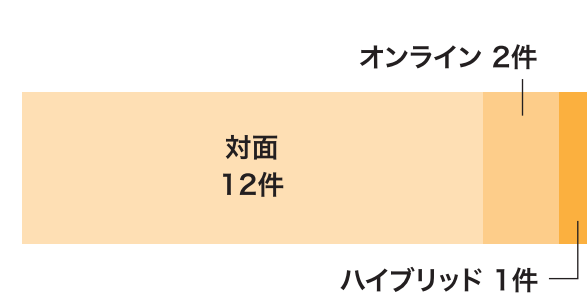
(※1つの派遣授業で複数学年や希望者だけが出席する場合があります)



■講師・ゲストの方々の繋がりのある国・地域

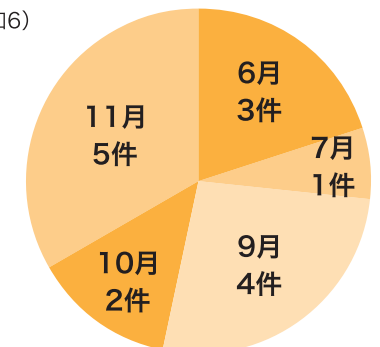


■実施方法



■実施時期

2024年(令和6)



実施日 2024(令和6)年6月7日(金)

実施方法 対面

対象 3学年 1クラス / 27名

講師 漆原比呂志さん

(一般社団法人JLMM 事務局長 / NPO法人アルペなん
みんセンター・地域連携コーディネーター)



神奈川県生まれ。国際協力NGOのJLMMからカンボジアとベトナムに6年間派遣され、現在は事務局長として日本からの支援を行う。2011年から10年間、カトリック東京ボランティアセンターにて東日本大震災の被災者支援にも関わり、現在に至る。

①ねらい

**共生社会(多文化・障害・ジェンダー等)の実現のために
生徒一人ひとりにできることを考えさせたい**

世界中の難民が年々増加しています。2022年6月19日の朝日中高生新聞のデータによると、その数は1.6億人です。漆原さんが【難民の友に。難民とともに。】というテーマで、ご自身の経験を交えながら、日本国内や世界中の難民について語られました。

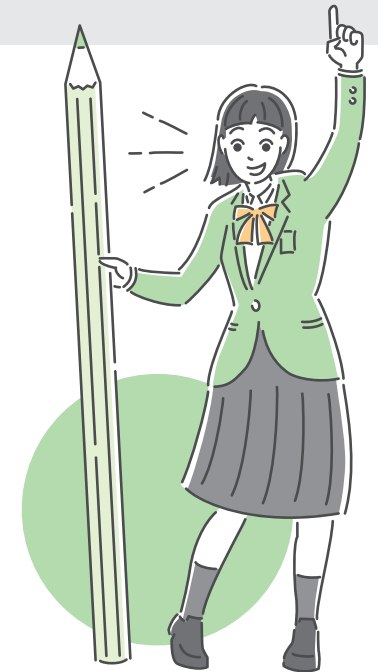
難民認定率の高いドイツやカナダと異なり、日本では“99%は認定されない!”。認定許可が下りるまで何年もかかり、入国管理局に収容され、長期間自由を失い、ようやく仮放免を得たとしても「今日、泊まる場所がない」という現実を突きつけられます。そんな過酷な現実に直面している難民を支援する難民シェルター「アルペなんみんセンター」が紹介されました。

しかし、支援があっても、就労禁止や社会保障がない等の制限がかかった仮放免では、難民が人間らしい生活を送れないという課題が浮き彫りになりました。国の難民政策の見直しや、難民と地域人々の交流を通して、難民を歓迎できる社会づくりについても語られました。

最後に漆原さんは生徒さんと“Refugees Welcome”という文字を書かれたカードを挙げた写真を撮って講演会を締めくくりました。その写真におさまったのは、ただのエンディングではなく、漆原さんの【難民の友に。難民とともに。】という思いへの「共感」ではないでしょうか。その「共感」がこの先、更に広がっていきましょう。

参加した生徒の感想

- なぜ日本は欧米諸国に比べて難民に対して厳しいのかという根本的な部分がとても疑問に思う。



実施日 2024(令和6)年6月13日(木)

実施方法 対面

対象 1学年 8クラス / 319名

講師 那波多目健太さん (NPO法人Colorbath プログラム マネージャー)

那波多目さんは子どもの頃から食料や環境問題に関心を持ち、大学ではフィリピンやスリランカで国際ボランティア活動を経験。現在はNPO法人Colorbathで、ネパールの持続可能なコーヒープロジェクトなど、多様な社会貢献活動に携わり、講演では生徒との距離を感じさせないフランクな語り口で、未来への希望を強く発信した。

📌ねらい

国際的な課題に対して、自分事として考える力を身につけさせたい。

SDGsに繋がる課題について考える講義をお願いしたい。

当校は、国際交流(アメリカ、韓国)を積極的に実施し、ホームステイ等でも受け入れを多く実施している。英語が得意ではないが好きな生徒が多く、その生徒たちが今後生きる上で、世界的課題を考える機会としたい。

那波多目さんは現在NPO法人Colorbathで様々なプロジェクトに携わっておられますが、講演会では、ネパールでの持続可能なコーヒープロジェクトについて紹介されました。

ネパールは総人口約3000万人に対して、国外で暮らす人は約600万人(1/5)にのぼります。その理由の一つとして、国内に十分な仕事がないという背景があげられました。この背景を踏まえ、コーヒー生産を通じて農家の収入向上と雇用創出を目指すプロジェクトが立ち上がりました。

プロジェクトは様々な挫折を経験しながらも、“未来は明るい、この先もよくなる”という強い信念を持ち続け、少しずつ形になっていきました。また、IT業や農業など多様な分野の人々と関わることで、多くのアイデアが生まれました。多様な視点を受け入れることで、その結果、物の見方が変わり、自分の世界が広がる「ひろがれ、せかい」という活動のコンセプトについても語られました。

未来には不安要素が多く存在しますが、困難に直面したときに自分がどう捉えるかが重要です。壁だと考えるのではなく、それを高く進むための階段だと信じることで必ず良い方向へ進める、と、生徒たちに熱いメッセージを届けました。

💬参加した生徒の感想

- 今回の講演会で夢は叶うということを教えてくれて自分の自信にもなった。自分はまだ将来について考えていないからこれから社会に役立つことを探して夢を叶えたいと思えた。
- ネパールの人と職を通してSDGsに貢献している那波多目さんの行動に感動した。
- 同じ日本人に外国について大変なことをしてる人が今近くにいるんだなっていうことが現実的にすごいことだなって思いました。
- 常に日頃から飲んでるコーヒーを1杯のんでも生産者には高くても10円程度しか行かないことに驚きました。社会で聞くフェアトレードより深刻なんだなと思いました。
- 私は実際に行動に移すことが苦手ですが、お話をしてくれた方のように行動に移せるような人になりたいと思った。



実施日 2024(令和6)年6月27日(木)

実施方法 対面

対象 3学年 9クラス / 330名

講師 星野ルネさん
(漫画家 / タレント / 放送作家)



アフリカのカメルーン共和国出身。4歳の時に来日後、兵庫県姫路市で育つ。放送作家を中心に多くのメディアで個性を活かし活躍中。独特の関西弁のトークと発想力で新鮮な笑いを見だし、幅広い層を対象とした講演も行っている。

①ねらい

生徒一人ひとりが共生社会(多文化・障害・ジェンダー等)の実現に向けて果たせる役割について考え、自ら行動を起こすきっかけを提供する

講演ではカメルーンについて、サッカーが盛んな国であり、日本では「サムライブルー」として親しまれる代表チームに対し、カメルーンでは「ライオン」と呼ばれるチームが国民に愛されていることが紹介されました。

星野さんは来日当初、興味本位の目で見られることもありましたが、周囲に守ってくれる仲間がいたことで安心感を得た経験を語りました。運動会ではアフリカ人であることから「足が速い」と期待され、そのプレッシャーを感じたエピソードも披露。また、カメルーンの教育制度は年齢ではなく学力レベルで学年が決まることが紹介され、星野さんは算数が得意だった一方で、フランス語が苦手だった経験を通じて、人それぞれ得意不得意があることを理解する重要性を強くお話されました。

またアルバイトの面接では、名前と見た目のギャップにより不合格となった経験もあるそうです。しかし、現在では外国人がさまざまな分野で活躍していることを示し、日本社会の多様性が広がっていることを強調されました。講演の最後には、多文化共生の基本について、異なる文化や価値観を認め合うことが共生社会の第一歩であると強調し、互いの違いを尊重し合う姿勢の重要性をお話されました。

参加した生徒の感想

- 漫画で星野さんの経験を知ることができ、楽しく、そして記憶に残るようなとても貴重な経験でした。人種での決めつけ、偏見をなくしていくにも多文化共生の学びができてよかったです。
- とても面白くて勉強になる講演会でした。ルネ先生の漫画読みたくなりました!
- 多文化共生について学ぶことはとても大切だと改めて気づくことができました。講師の方の経験を聞いて、辛い思いや大変な思いをたくさんしてきたことを知りました。経験者のことを理解しているつもりでも、気づけないところで傷つけてしまうこともあるし、理解したと思いついていて私にはわからないこともたくさんあることを知りました。今日学んだことを活かして、常に相手の気持ちを考えて生活していきます。



実施日 2024(令和6)年7月12日(金)

実施方法 対面

対象 3学年 8クラス / 277名

講師 横浜デザイン学院に在学中の留学生5名

- ① THAE THET PAING OO(ミャンマー)
- ② INOUE NICHAREE(タイ)
- ③ PAOPANLERD PLOYJAPLOEN(タイ)
- ④ ZADES ALEXANDER IAN MORPHEUS(アメリカ)
- ⑤ CHEN HSINGYU(台湾)



①ねらい

生徒が積極的に英語を使ってコミュニケーションを図る態度を育成する

4クラス×2コマ、合計8クラスでゲームを通じて留学生との交流を行いました。クラスによってゲームの内容が異なり、生徒は事前に聞いた留学生の趣味などに合わせてゲームの内容を考え、様々な工夫をしました。歌クイズ、アニメクイズ、じゃんけん、福笑いなど、考え出したゲームの種類は数えきれないほどでした。

生徒も留学生も最初は緊張していましたが、ゲームが進むにつれて徐々にリラックスし、笑いの絶えない楽しい学びの時間となりました。英語が苦手な生徒でも、とても“HAPPY”という雰囲気の中で恥ずかしがらず、自然と発言することができました。

参加した生徒の感想

- 普通に生活していて外国の方と関わることはめったにないので緊張したけど楽しかった。とても良い経験ができたと思う。
- 日本の色々なことを調べ英語に訳すのが大変だったが留学生が楽しんでいて、自分も楽しんでやれた。
- こういった形で海外出身の方と交流するのは初めてだった。ゲームをする事で共通の話題、楽しめる場を作れると分かったし、その他の方法でコミュニケーションを取れるようになりたいとも思えた。交流の場が増えるのは良いことだが、隣にいる時に話しかけたり、こちらから英語で積極的になれる人は、私含めやっぱり少ないなとも感じた。
- お互いの言語に対する壁、苦手意識は無くなった方がいいなと改めて思った。
- やはり言語が違うとコミュニケーションが難しく、戸惑った場面もありましたが、異言語でも一緒に楽しくゲームができて伝言ゲームでも伝えることができました。
- 留学生の方が日本語を自信を持って話している姿を見て、自信を持って話していた方が自信なさげに話している時よりも逆に聞き取りやすいということに気づいたので、私も英語を話す時は「間違えても大丈夫。きっと伝わる」と心に留めて自信を持って話すようにしたいと思いました。
- 色々な国から来ていて、ひとつの国だけの交流にならず良かったと思う。
- 日本で伝統的な遊びなどを紹介することができてよかったです。



実施日 2024(令和6)年9月2日(月)

実施方法 対面

対象 2学年 1クラス / 20名

講師 アーツカレッジヨコハマに
在学中の留学生5名

- ① KIRILL ZHIRIKHI(ロシア)
- ② SALCES LOISHE JEAN(フィリピン)
- ③ KHAWAS SANDESH(ネパール)
- ④ THAE NANDAR SO(ミャンマー)
- ⑤ SATTOROV SAMANDAR
(ウズベキスタン)



①ねらい

異なる国や地域の文化を直接体験し、実際に多国籍の方々と交流することで、多文化共生への理解を深める。授業で学んだ内容を基に疑問を共有し議論する機会を設け、多角的な視点で考える力を育む。

初めての日本の高校生との交流で、最初から緊張を隠せない留学生でしたが、高校生のフレンドリーさ、「おもてなし」で徐々にリラックスし、とても楽しい時間を過ごしました。

交流会は5名の留学生の自己紹介からはじまりました。その後、5グループに分かれた生徒の中に留学生が一人ずつ入り、20分間×2セットで文化交流を行いました。グループごとにプログラムが異なり、書道、けん玉、百人一首や折り紙など生徒が自ら考え、英語で留学生に日本の文化を紹介しました。また、生徒が様々な日本のお菓子を用意しており、留学生が実際にそれを食べ、日本の食文化を体験しました。留学生も自国の文化などの紹介に、携帯で写真を見せたり、紙に描いたりするなど工夫をしながら、より分かりやすくなるように話をしました。

生徒がとても積極的に英語に取り組んでいる姿勢から、留学生も良い刺激を受け、この先、更に英語力を身につけ、英語活動に取り組んでいきたいとの意欲を示しました。双方にとって、とても有意義な交流会になりました。

参加した生徒の感想

- 日本の文化を教えたり体験してもらったりすることができましたし、私の班に来た方がどちらも楽しんでくれて嬉しかったです。また、相手の文化も教えてもらって知ることができたので、私もとても嬉しかったです。
- 自分たちよりも年上の人と交流することは今まであまりなかったので、また違った雰囲気でした。関わった2人のどちらも、私達の将来について質問をしてくれて、アドバイスや自分の体験談を話してくれるなど、内容の濃い話を聞けました。日本の遊びをすることが、私たちも中々なくなってしまっている中で、一緒に楽しんでくれて嬉しかったです。
- 自分たちで交流の内容を考えて、一緒にできるのが楽しかった。話す時間も沢山取れたから何個か質問できたり、違う国のことを知ることができた。
- もっと色々な人と今回みたいな交流ができれば楽しいと思う。
- 自分の国についてたくさん話してくれたので、とてもその国一つ一つについて知ることができました。また、私たちが考えたゲームを楽しんでくれて嬉しかったです。日本のカルチャーをよく知ってくれている人もいてさらに詳しいことなどを伝えることができてよかったです。日本の文化との違いなども知ることができました。
- 英語を第二言語としている人たちが英語を取得するために使った教科書などが違って面白かったのと、知らない国の有名な場所を聞いてその国に対する価値観が変わった。
- いろいろな多文化を感じることができて嬉しかったです。みんな優しく英語でも会話できたし最高のひとときでした。ありがとうございました。



実施日 2024(令和6)年9月2日(月)

実施方法 対面

対象 3学年 16クラス／635名

講師 エソダ バスネットさん
(翻訳・通訳者、国際理解講師)

ネパール出身。留学生として2005年来日。横浜国立大学・大学院で国際協力分野の博士課程単位を取得し、その後、国際理解・ジェンダー・キャリア教育や多文化共生などをテーマに、高校や大学などにおいて日本語や英語で講演を多数行っている。

①ねらい

異文化に触れ、社会を知るための機会とする。

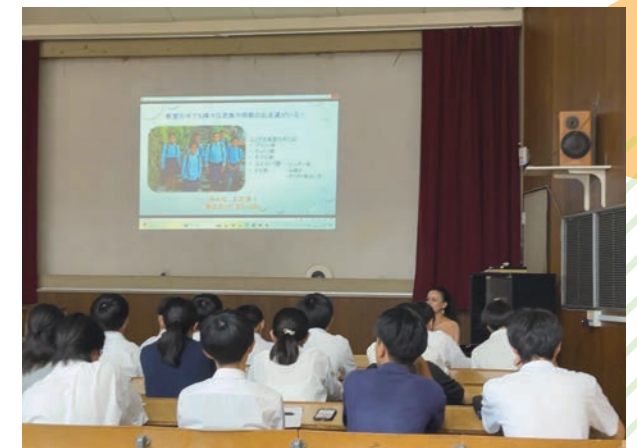
ネパール出身のエソダさんから、多文化共生や異文化理解をテーマに、ネパールの多様な民族、文化、言語が共存する社会を紹介し、幼少期から異文化が身近な環境で育った経験など貴重なお話いただきました。また、日本との経済格差を乗り越えて留学し、アルバイトをしながら大学・大学院に通った努力や、日本語習得の苦勞を夢を支えに乗り越えた実体験は、生徒たちに大きな感銘を与えました。

さらに、ネパールでは教育が当たり前でないことや、女子教育の遅れについても触れ、自身が行っている支援活動の重要性についてお話いただきました。日本は安全で教育や情報が豊富な国であり、異文化を受け入れながら国際感覚を養う絶好の場であると、生徒たちに国際化を支える人材としての成長を促すメッセージを届けてくださいました。

生徒たちは、エソダさんの体験談や多文化共生への思いに深く共感し、世界への視野を広げるきっかけを得ることができました。今後も財団としてはこのような講演を企画し、生徒たちがグローバルな視点を持つ機会を提供していきたいと考えています。

🗨️ 参加した生徒の感想

- ネパールのことについて詳しく知らなかったのですが、今回の講演を通して日本との違いやエソダさん自身の体験を通じた話など、興味深いものが多かったです。自分も他国の異文化についてより知り、理解を深めていこうと思いました。
- ネパールのことを知るとともに、異文化理解や国際交流のことも学べたので良かった。自分も国際について興味があるので、少しでも繋がることだったり、できることがあったら行きたい。
- あまり海外のことに触れることがなかったので、海外のことを知れて、より海外に惹かれました。自分も海外に興味があるので行ってみたいなどと改めて思いました。また、一つの国に多くの民族がいて言葉が多くて大変だなと思いました。ネパールの今の状況について知れたので日本とは違いすぎて驚きました。
- アメリカとかの人が来ると思っていたけど、ネパールの人でびっくりした。ネパールの言語が多い理由がわかった。スライドを使って画像をたくさん入れていてわかりやすかった。
- エソダさんのように、他国の文化に触れて尊重することが、自分たちの文化をより大切にできることにつながると感じた。
- これからこのようなプログラムが増えて他の国々の文化について、いっぱいいろんな人に知ってもらうことが大事だと思った。



実施日 2024(令和6)年9月7日(土)

実施方法 オンライン

対象 2学年(1クラス)、全学年(希望者)
2クラス/30名

講師 星野ルネさん
(漫画家/タレント/放送作家)



アフリカのカメルーン共和国出身。4歳の時に来日後、兵庫県姫路市で育つ。放送作家を中心に多くのメディアで個性を活かし活躍中。独特の関西弁のトークと発想力で新鮮な笑いを見だし、幅広い層を対象とした講演も行っている。

①ねらい

異文化共生や異文化理解を高める。
また、海外にルーツをもつ方々と関わり合う。

カメルーン生まれ、日本の姫路市育ちの星野さんがご自身の経験に基づいて母国文化や先入観などについて語りました。来日当初は星野さん自身の存在が周りの人たちから注目された時もありましたが、実際に星野さんと遊んでコミュニケーションすることで星野さんのことを知って守ってくれる仲間ができました。異文化を理解するには、実際に接してコミュニケーションすることの大切さを示してくれました。

カメルーンは自然豊かで動物に囲まれている国だと多くの日本人がイメージを抱いているようですが、実際に星野さんがカメルーンで動物に囲まれたことはなく、むしろ日本に来てから、動物園でいろいろな動物を見ることができたそうです。また、運動会ではアフリカ人だから早く走れると期待され、プレッシャーを感じたこともありました。人々は先入観で判断しがちですが、実は人々の個性や能力はそれぞれで、国籍とは関係なく、その人と実際に接して知ることが最も重要だと強調しました。

日本はこの先も外国籍の住民が増加する傾向です。多文化共生の基本は、異なる文化や価値観を認めるところから始まるという星野さんのメッセージで講演会を締めくくりました。

参加した生徒の感想

- どんな人と接する時でもその人に偏見を持ったりフィルターをかけて関わるのではなく、直接会って話したりスポーツや遊びなどでかかわって仲を深められることを学ぶことができ良かったです。
- 無意識に差別をしてしまうことは起こってしまうこと。全部を知るといことはできない。会話をたくさんすることで相手の考えもわかるし、悪気なく言ってしまったら素直に謝って、どういう考えをしていたのかとかを聞くことでたくさん理解することができる。それを続けていくことでいい関係を築ける。
- 普段、海外の方から話を聞ける機会も少なく、ましてやアフリカの方からの視線でのお話を聞いてとても楽しかったし貴重な経験になりました!ありがとうございました!
- 自分にはそんなつもりがなくても自分の中に何かしらの固定概念があり、自分と違う人を知らぬ間に差別してしまうことがあると思うので、これからはそんなフィルターを外して平等に接していきたいです。
- 今回の講演会で得た知識や思考の仕方などを活かして自分と少しでも違う人に変なイメージをつけたりして差別をしないように気をつけていきたいと思いました。



実施日 2024(令和6)年9月19日(木)

実施方法 対面

対象 (1.2学年)2クラス及び(希望者全学年)／120名

講師 柏木実業専門学校に在学中の留学生10名

- | | |
|-------------------|--------------------------|
| ① カルキ ビニタ(ネパール) | ⑥ ダス ニラズ クマル(ネパール) |
| ② カンデル スマン(ネパール) | ⑦ チャパガイン オム プラカッシュ(ネパール) |
| ③ チェパング ビスヌ(ネパール) | ⑧ リンブ ブダ マヤ(ネパール) |
| ④ カルキ プラジタ(ネパール) | ⑨ バトライ ニルマル(ネパール) |
| ⑤ スレスタ アムリタ(ネパール) | ⑩ ボホラ モハン プラサド(ネパール) |

①ねらい

本校生徒には英語に興味を持ち、英語が母語でない人々と実際のコミュニケーションを持ちたいと思っている者も多い。
しかし現実的にはその機会はかなり限定的であるため、授業内及び放課後の活動においてその機会を与え、英語学習へのさらなる動機づけとする。
また異文化を理解する機会ともしたい。

交流会は生徒の温かいウエルカムな雰囲気の中でスタートしました。

生徒の前で、留学生が一人ずつ1分間で名前や趣味などの自己紹介を行い、その後は3～4名の生徒構成のグループに入り、日本の好きな食べ物や場所、お互いの趣味などについて話し合いました。英語で伝わらないときには、ジェスチャーや日本語で説明をし、お互い柔軟に対応しました。また、より多くの留学生と話すため、4回のローテーションを組みました。

英語でコミュニケーションをとるのは大変でしたが、交流後、生徒からは楽しかったとのコメントが多く寄せられました。また、10名の留学生全員がネパール国籍で、生徒がネパール文化についてよく知ることもできました。

… 参加した生徒の感想

- 実際に留学生と話す経験が今まで無かったので、今回やってみて自分が思っていたよりも英語が話せるなど分からない単語があるなどわかりました。
- 文法がしっかりしていなくてもポイントごとに話して伝わることもあるのだなと初めてわかりました。
- いつか他の国の人と話してみたいなと思っていたので実際に機会を設けていただけてとても楽しかったです!ありがとうございました!
- 留学生の方によって性格や話し方、好み等はまったく違ったが、どの人も明るく楽しそうに接してくれて、英語で話すのが不安でも楽しく話すことができた。英会話の楽しさを認識できた。
- 楽しくフレンドリーに声を掛けてくれて答えやすかった。こっちから質問等あまりできなかったけれど笑顔で対応してくれて嬉しかった。
- 留学生と話す機会はなかなか無かったから良い経験になったしとても楽しかったです。ありがとうございました。
- 留学生の好きなスポーツや日本食など色んな話ができ楽しかったです。
- 英語が完璧にできなくても楽しく会話をして交流することができることを知った。



実施日 2024(令和6)年10月3日(木)

実施方法 対面

対象 1学年国際科／39名

講師 オクサーナ・ピスクノーヴァさん
(語学講師／ウクライナ避難民支援者)



ウクライナ・ドネツク州生まれ。1996年に来日。2014年のロシアによるクリミア・ドンバス侵攻後、ウクライナ文化を伝えるためイベントや講演会を実施。2022年のロシアによるウクライナ侵攻後は、ウクライナ支援に尽力し、現在は横浜市で避難民サポートを行っている。

①ねらい

平和について考える

近年、世界中で戦争や紛争が頻繁に起きており、紛争当事国間のみならず、世界中の国々が影響を受けました。平和とは？平和のために、私達には何かできる？という質問のもとに、高校生はウクライナ出身のオクサーナさんと共に、その答えを探りました。

ウクライナは「欧州のパンかご」から「世界の食糧庫」に穀物など大量輸出していますが、ロシアの侵攻により、輸出ができず、世界中に悲鳴が上がっています。日本も経済的であれ、国民の生活であれ、大きなダメージを受けています。なぜなら、日本に穀物、鉄・鉄鋼、鉱石や電子機器などを多く輸出しているからです。

オクサーナさんは1991年ウクライナ独立から、隣国ロシアとの戦いの歴史、2022年ロシアからの全面的な軍事侵攻まで語りました。2014年にウクライナへの侵略を開始して以来、ロシアは400以上の国際条約に違反しました。国際刑事裁判所は、ロシアのプーチン大統領などに逮捕状を出しましたが、いまだに逮捕されず、戦争がなくなる現状です。また、核兵器のない世界が求められています。ウクライナは核兵器を手放したことで、戦争に巻き込まれました。核兵器は平和を維持するには必要？と、戦争が人々に様々な思考を与えました。オクサーナさんは、世界の平和について、正しく情報を知ることや、政治に興味を持つが重要であると語りました。

最後に、「平和とは？平和のために必要なこと？」について、生徒達がグループごとに考え、議論しました。平和の反対は“暴力”や“笑顔がないとき”、“生徒としてできることは日常生活で相手の気持ちを思いやる”などの様々な意見が出ました。

参加した生徒の感想

- 貴重なお話を聞かせていただく機会を設けてくださり、ありがとうございました。体感したことがなくても伝わる戦争の恐ろしさや、平和を実現することがいかに難しいかを知ることができました。常に些細な問題において最善を考えられるようにしたいと思います。
- 今回の講演でウクライナについて深く知れた。今まではニュースなどで報道されていることしか知らなくて、自分では知っているつもりになっていたけど今回お話を聞いてまだまだ知らない事もあったと思っただし、ウクライナの人たちのことを理解するのも難しいなと感じた。
- 街は戦争の結果、崩れたり、ボロボロになっていたが人々の動きは普通で驚いた。車は普通に通っているのに、隣の建物は崩れている、違和感がすごく、不思議だった。
- ウクライナでのことはニュースで聞いたことしかなかったけど、現地の写真などを実際に見せてもらってウクライナの人々が苦しい状況に立たされているということがわかった。説明も地図や空襲警報のアプリの画面などを見せながら進めてくれたのでとてもわかりやすかった。
- 平和の厳しさを学ぶことができた講演でした。そう簡単に平和っていうのは実現できないんだなと感じました。私たちはまだまだ第三者として、客観視しすぎていて平和について戦争について楽観的に考えていたのかなと思いました。これからはもっと深く考えて行けたらいいなと思います。



実施日 2024(令和6)年10月28日(月)

実施方法 対面

対象 8クラス程度／300人程度

講師 星野ルネさん
(漫画家／タレント／放送作家)



アフリカのカメルーン共和国出身。4歳の時に来日後、兵庫県姫路市で育つ。放送作家を中心に多くのメディアで個性を活かし活躍中。独特の関西弁のトークと発想力で新鮮な笑いを見だし、幅広い層を対象とした講演も行っている。

①ねらい

多文化社会を生きる

カメルーン出身で姫路市育ちの漫画家でありタレントの星野ルネさんが、多文化共生をテーマに講演を行いました。星野さんは、小学生新聞の連載やNHK WORLDのレギュラー番組を持つなど、多方面で活躍されています。

星野さんはまず、母国カメルーンについて紹介しました。同国ではサッカーが非常に盛んで、その文化的背景や情熱的な社会を語られました。来日後、日本社会とカメルーン社会を見比べながら生活する中で、さまざまな経験を重ねてきたといいます。星野さんは、日本に来た当初、周囲から注目されるような視線を感じることもありましたが、やがて自分を支えてくれる仲間を見つけ、心強さを得たエピソードを共有されました。また、学校生活では運動会の際に「アフリカ人だから早く走れる」と期待され、プレッシャーを感じた経験も語られました。

カメルーンの教育システムにも触れ、同国では学年が年齢ではなく修学レベルで決まることを説明しました。星野さん自身、算数は得意でしたが、フランス語に苦労したことを通して、「誰にでも得意なことと不得意なことがある」と気づいたそうです。さらに、学園祭で母親が民族衣装を着て訪れた際、当時は恥ずかしく感じたものの、現在では外国人がさまざまな分野で活躍する姿を見て、当時の自分の狭い視野に気づかされたと振り返りました。星野さんは講演の中で、「多文化共生の基本は、異なる文化や価値観を認めることから始まる」と強調しました。自身の経験をもとに、多様性を受け入れることの重要性を伝え、多文化社会の可能性について考える貴重な時間を提供しました。

参加した生徒の感想

- カメルーンという国はこの講演会があるまで知らなかったのですが、30分という短い時間でもカメルーンについて知ることができました。実際に日本に住んでいる外国人の方のお話などは聞ける機会が少ないので経験談を聞けてとても面白かったです。
- カメルーンのことについて知らなかったことも知れたし、実体験を話してくださっていたから身近な内容が多く、面白おかしく聞くことができました。貴重な体験をありがとうございました。
- スクリーンに映し出された漫画の内容の解説が多く、集中して聞くことができました。わたしも幼稚園生の頃に黒人と仲良かったので、似たような話があって嬉しかったです。ありがとうございました。
- とてもおもしろかったです。もともと、本の存在は知っていたのですが、なかなか手を出せずにいました。今回ルネさんのお話を聞いて、さまざまな葛藤の末、今を生きているんだなと思いました。今まで珍しく思っていて関われない存在だったけど、これからはどんどん関わって仲良くなって互いの文化の違いについて知りたいなあと思いました！
- 暗い話なのかなって思ったけど、明るい話も人生の話も聞けて、いいところと大変だったことを聞けて、もし自分が外国に留学に行ったら同じような行動が取れるかなって思いました。



実施日 2024(令和6)年11月2日(土)

実施方法 対面

対象 1～3年学年 希望者／30名

講師 崔英善さん
(韓国語講師)

2002年来日。慶應義塾大学大学院修士課程修了。神奈川県立相模原総合高等学校等の韓国語講師。
バイリンガル人材ネットワーク代表。新宿自治創造研究所研究員や藤沢市多文化推進職員等歴任。

ねらい

韓国語学習を通じてグローバルマインドを育み、国際社会に貢献できる人材の育成を目指すとともに、異なる文化や価値観を持つ人々との共存や相互理解を促進し、国際社会における協調性を養う。さらに、12月に予定されている韓国姉妹校訪問への準備としての基盤を築くことを目的とする。

今回のプログラムでは、韓国の基礎知識や都市部の風景、交通インフラ、食事、教育制度、韓国の高校の種類や制服、行事、時間割、宗教、軍隊、紙幣、そして韓国と日本の文化的な違いについて紹介されました。

崔さんは、韓国の首都ソウルを中心に発展した近代的な都市景観と歴史的な文化が調和した社会を説明し、韓国の食文化や厳格な教育制度、社会的な規律を詳述しました。また、韓国には多宗教が存在し、徴兵制があり、通貨はウォンであることが紹介されました。特に、韓国と日本の違いについては、儒教的な価値観に基づく礼儀や年齢、立場に対する敬意が強調され、両国の文化的な違いを理解する重要性を話されました。

続いて、崔さんが韓国語の特徴や自己紹介の仕方を紹介し、ロールプレイを通じて実践的な学びが進みました。参加者は実際に韓国語を使う場面を体験し、韓国文化をより深く理解する機会を得ました。講演の最後には、2名から質疑応答が行われ、その中で日韓問題についての質問がありました。崔さんは、歴史に対する学びの角度が各国で異なることを説明し、相手国にもさまざまな立場の人々がいることを理解することで視点が変わることが丁寧な解説しました。さらに、国民同士の交流が重要であると強調し、参加した高校生や教員たちはその意義に深く頷いていました。

参加した生徒の感想

●韓国の意外なところや、高校生活の違いなど韓国についてすごい詳しく知れて、さらに興味を持ちました。また、言葉では知っている言葉はもちろん自己紹介の仕方などや家族の呼び方、上下関係が厳しくフルネーム呼びは好ましくないなど日本と違うところがたくさんあって驚きました。もっとお話が聞きたかったと思うくらいでした！

●食文化の違いは以前から知っていたが、そのような文化になった理由までは知らなかった。そのため、チェヨンソンさんがそのような文化になった経緯を考察して話してくれた。また、韓国語のパッチムの発音の仕方やイントネーションといったネイティブの方が知る情報を知れてかなり良かった。

●韓国の文化について興味があったので実際にハングルや韓国文化について触れることができ良かったです。また、大学生になったら異文化について学ぶため今日の授業はすごく勉強になりました。ありがとうございました。

●韓国の文化や韓国語などさまざまなことが学べて良かったです。韓国の人は辛い物が得意だと思っていたが、最近ではキムチを食べる子供が多くないこと、ご飯を食べる時に食器を持たないのは気候が関係していることなど、今まで疑問に思っていたことがわかって良かったです。

●韓国語だけではなく、韓国の歴史や日本との違いを知ることができて良かったなと思いました。



実施日 2024(令和6)年11月11日(月)

実施方法 対面

対象 2学年 2クラス/72名

講師 横浜デザイン学院に在学中の留学生10名

- ① NARA MAYA CRYSTAL(イギリス)
- ② GUENEAU EMMA ELISA ANNA(フランス)
- ③ EXAMUS KAWABATA RAFAEL(ブラジル)
- ④ UCAR MEHMET UGUR(トルコ)
- ⑤ GAO ZIQI(中国)
- ⑥ THIPWONGSA CHUENKAMON(タイ)
- ⑦ ELIMELECH SHACHAR(イスラエル)
- ⑧ PAPAGNO MICHELE(イタリア)
- ⑨ MARCONI SCIARRONI VITTORIA ELAINE(イタリア)
- ⑩ FRENCH DYLAN COOPER(米国)



参加した生徒の感想

- たくさんの文化が知れてたのしかったし、話せておもしろかった。
- みんなとても優しい人ばかりで話しやすかった。
- 初めて外国の方とお話してとても新鮮で面白かった。どの方もこちらが理解できなかったら日本語で言ったりジェスチャーをしたりしてくれて優しかったのが印象に残っている。ネイティブの英語を目の前で聞けて、聞き取れなかったことも含めてとてもいい経験だった。
- 全て英語だから聞き取る力が大切で、分からなくても頑張って理解しようと努力することが大切だった。英語でいろいろな反応をしたり知っている単語や文で色々と質問に答えたり質問をすることができた。ただ聞きたいけど英語にできなくて聞けないことがたくさんあった。でもずっとお互い笑顔で楽しかった。
- あまり英語を長々と話す機会がない中、50分英語を話すことができとても楽しかった。また、このような機会が欲しいと思った。

ねらい

既習事項を踏まえ、対面における実践的な表現力とコミュニケーション能力を養う

日本に来て間もない留学生との交流の時間は、最初に留学生の名前覚え当てクイズを実施しました。留学生と生徒間の距離が縮まり、大変盛り上がりました。クイズ後、高校生は留学生とグループになり、先生から与えられたトピックで交流しました。英語で自己紹介、趣味やスポーツ等についてお互いに質問しあいながら交流しました。英語が苦手な生徒も多く見受けられましたが、英単語やジェスチャーなど、自分なりの英語コミュニケーションに努めました。先生の声が聞こえないほど、生徒は交流に集中して、笑い声も絶えませんでした。

交流の最後には、“平和で幸せな社会にとって大事だと思うこと”について議論しました。笑顔や尊重などの答えが出ました。多文化共生社会とは、まさしく今回の交流会の様に、さまざまなバックグラウンドの人々と出会い、言葉や文化の壁は存在しても、お互いに笑顔で接し、理解し合うように努めていくことが大切だと感じられる時間でした。



実施日 2024(令和6)年11月11日(月)

実施方法 オンライン

対象 9クラス 1学年 / 360名

講師 辰野まどかさん

(一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト(GiFT)、
ファウンダー・代表理事)

17歳の海外体験をきっかけにグローバル教育に目覚める。その後、国内外の産官学民の分野でグローバル教育事業に携わる。2012年に、グローバル・シチズンシップ育成を掲げ、GiFTを設立。現在は、JICA地球ひろばの教員研修や、大学・高校との10カ国を舞台にした海外研修等、SDGs、グローバル・シチズンシップ育成に関するプロデュース、研修・講演等を行っている。東洋大学食環境科学研究科客員教授。

ねらい

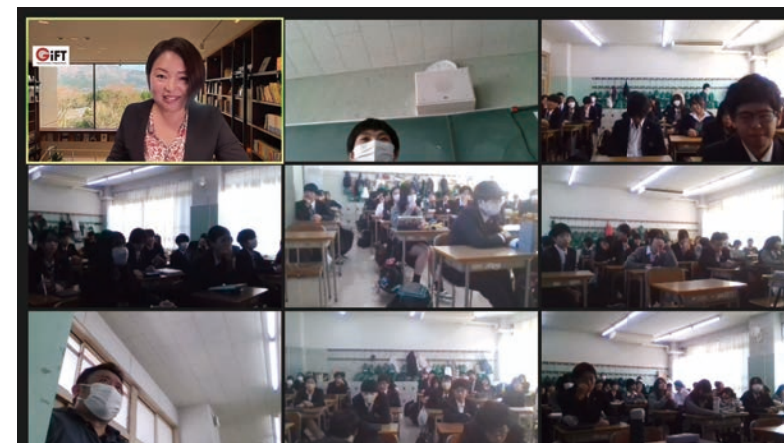
生徒がグローバルな視点で身の回りを見るきっかけとしたい。
生徒が日々の学習に前向きに取り組む動機づけとしたい。
生徒が自身の進路活動(進学)について考えるきっかけとしたい。

この講演では、参加者がペアで自己紹介を行い、自分の好きな国と、その理由を話すグループワークが行われました。辰野さんは、17歳の誕生日に母親からスイスでの会議に出席する権利をプレゼントされた経験を共有し、最初は戸惑ったものの、実際にその経験を通じて世界とつながる仕事をするようになったと述べました。

また世界とつながるための扉を開ける方法として、コンフォートゾーンを抜け出し、新たな道を切り開く重要性を強調しました。そして「グローバルとは何か?」について、自身が2024年に見てきた実例を交えながら説明し、世界とのつながりを深めるために自分を変えるカギがどこにあるのかについて考察しました。現在、辰野さんは仲間と共にグローバル教育の分野で活動しており、多くの若者に世界とのつながりを提供する仕事をしていることを伝えました。

参加した生徒の感想

- 今回の講演会を聞いて、グローバルな社会をつくるには、誰かがつくるのを待つのではなく、自分でつくっていくことが大事だと改めて思いました。自分の将来の夢でも、国際交流やグローバル社会をつくる事ができるのなら、積極的に勉強したり、社会に目を向けることもしたいと思います。
- 講演会を通じて自分の価値観を広げるために新しいことや環境に身を置くことが重要だと気づけた。
- 自分はずっとコンフォートゾーンにいるなど実感した。
- 自分は元々海外に興味があり、このお話を聞いてとても良かったなと思います。まどかさんの経験やそこから得た考えは自分が1歩踏み出すための自信につながり、交流などのイベントに参加してみたいなと思いました!ありがとうございました。
- 新しいことへ自分から挑戦していくことが自分の成長に繋がっていくと実感した。
- 物事が大きく変わるキッカケというのは、思いがけないところから来るんだなと思った。自分も、英語はあまり好きではないが、将来英語は話せるようになりたいと思っているので、もっと英語に関心を持って色々グローバルについて知りたいなと思った。



実施日 2024(令和6)年11月14日(金)

実施方法 対面

対象 1クラス/17名

講師 ジギャンクマル タパさん

(かながわ国際交流財団職員/
駐日ネパール大使公式通訳)



1979年ネパール生まれ。2000年に留学のため来日。2009年横浜国立大学大学院博士課程(国際開発)単位取得後、現職。神奈川県地方創生推進会議の委員として政策提言にも携わる他、エベレストインターナショナルスクール評議員、海外在住ネパール人協会アドバイザー。異文化理解や国際協力をテーマにJICA、ユニセフや多数の大学等での講演や新聞、ラジオやテレビにも多数出演

①ねらい

探究活動を通じ、本校の生徒の人間力を高め、豊かな社会を築くために積極的に寄与する意欲や態度の育成を図る。

今回の講演では、まず自己紹介を行い、神奈川県内で多くの外国人住民が暮らす地域について触れました。その後、外国人数の推移と県民比を紹介し、神奈川の多様性がどのように変化してきたかを説明しました。

さらに「写真で見るかながわの多様性」と題し、地域の多文化共生の実態を視覚的に示しました。また、日本で外国人が直面する課題をランキング形式で紹介し、特に生活面での困難に焦点を当てました。次に、多言語支援センターの役割を説明し、外国人の生活を支援するための財団の活動についても詳述しました。ホスト社会への啓発活動についても触れ、外国人と共生するために必要な理解と支援の重要性を強調しました。最後に、講演のまとめとして、共生社会の実現に向けたさらなる取り組みの必要性を訴えました。

参加した生徒の感想

●講演会では自分が思っていた以上に、日本には海外の人たちがいるという現状を知り、これからもっと多様な人々が住みやすい世の中になっていけば良いなと思いました。

●このセミナーを受講する事で、色々な文化や伝統を知る・理解できる事を知り、こういったセミナーにたくさんの方が参加することで、もっともっと人と人とのコミュニケーションの輪が広がると思うし、普段とはまた違った経験ができるので良いなと感じました。

●今回の講演を聞くまで、英語で話さなければいけないような難しいセミナーかと思っていたけれど、セミナーの写真やジギャンさんの話を聞いて、この財団についても興味が湧きました。日本の高校生や日本に住んでいる外国人など、たくさんの人に向けて活動していることがわかって、怖いイメージはなくなりました。

●どんどん外国人が増えて来てる日本で私たち学生ができることは何か、考えることができた。自分自身国際交流が好きなので、今日のセミナーを通して新しい考えに触れることができたし、自分自身に生かすことができると感じた。

●今まで聞いたこと無かった話や、自分の考えとは違うものを聞いて、すごい面白くなって思った。今度機会があれば参加してみたいなって思った。



実施日 2024(令和6)年11月28日(木)

実施方法 対面

対象 全学年 3クラス/71人

講師 矢野デイビットさん

(ミュージシャン、一般社団法人Enije 代表、明星大学客員講師)



日本人の父とガーナ人の母との間に生まれ、6歳で日本に移住。18歳まで児童養護施設で育つ。明星大学英文科卒業。ガーナのストリートチルドレンとの出会いをきっかけに自立支援団体Enijeを設立。

📌ねらい

本校国際英語クラスの生徒が今後海外に行くことや様々な国の人たちと生活していくイメージを持つきっかけ作りをする。

矢野さんは横浜創学館高校で過去にもお話をされており、今回の講演会は3回目となりますが、最初から最後まで生徒は熱心に耳を傾けていました。矢野さんのお話される声には穏やかさが感じられ、また矢野さんの思考のプロセスを大切にする話し方にも魅力されました。

矢野さんは日本とガーナの間生まれ、肌の色が受け入れられなかったことで「自分の居場所がない」と、とても苦しい時期がありましたが、お母さんと日本で寄り添ってくれる人々のおかげで立ち直りました。その経験で人と接する際には、正しいことより寄り添うことを心掛けるようになりました。

生徒からの「働くてなんですか?」という質問に対して、共に考え、答えのない社会で生きるため、今のうちに考える力を身につけることが大事ということを導きました。勉強は実は受け身であり、「なんでこの答えなの」と疑問を持つのが大事であるということをお話されました。また、教育重視の矢野さんが、ガーナの幼稚園の立て直しや中学校建設などの活動についてもお話されました。

最後の質疑応答で、生徒からたくさんの質問を受けました。質問に対して矢野さんからは、例えば「他人に優しくできるのは自分のことをまず大事にできることから」、「自分のやりたいこと、夢を見つけられることは実は奇跡に近いこと」、「他人に評価されたいという思いを捨てて、しっかり耳を澄まして自分の心に傾けること」など多くの金言を頂きました。とても考えさせられる有意義な講義になりました。

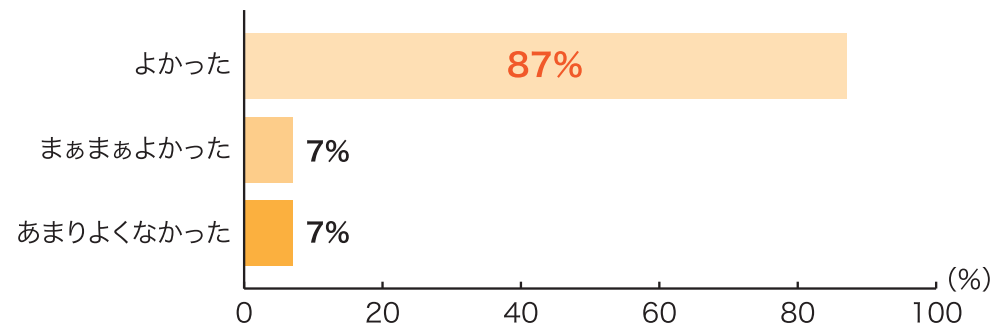
💬 参加した生徒の感想

- とても深い内容で考えさせられた。いかに自分が恵まれているかわかった。ありがとうございました。
- 世界を学ぶことでたくさんの人やたくさんの国のいいところや危ないところなどを知っていて旅してみたいとおもった。
- 今回の講演で、自分ももっと視野を広くして生きていきたいです。
- 私が矢野デイビットさんの話を聞いて思ったことは自分がやりたいことに没頭するだけでなく視野を広げた方がより世界のことを詳しく知れるということでした。
- これからの高校生活では自分が今やりたいことに没頭するのではなく、他のことに挑戦できるような時間を作り、大学もしくは専門学校に入学できたらいいと思います。
- 今まで悩んでいたことなどスッと無くなってスッキリした気がしました。

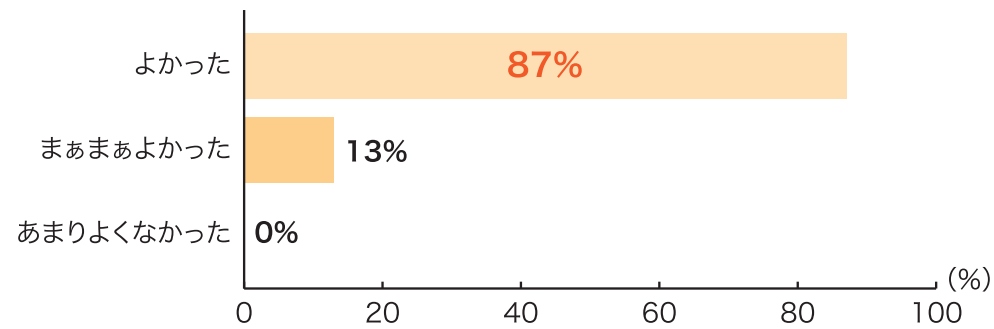


先生方のアンケート結果

Q 事業全体



Q 講演／ワークショップ



Q 本事業申込の理由

- 校外のリソースを活用してより充実した内容としたかった …………… 11
- 外部から講師を呼びたかったが予算がなかった …………… 5
- 国際教育をテーマとした講演／ワークショップを実施
したかったが、内容・講師についての情報がなかった …………… 5

(複数回答可)

先生方の感想(一部)

●国際交流セミナーの背景・目的・内容の理解を深めることができましたし、色々な気づきが得られたと思います。また、探究活動は続きますので、今後ともご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

●この度は、本校生徒のためにお力を貸していただき、誠にありがとうございます。申込みから事前の打合せ、準備、当日の授業と、丁寧にご対応いただきまして、感謝してもしきれません。ありがとうございました。

●5カ国の留学生が来てくださり、今まで会ったことのない国の方との交流は、とても刺激になったようです。文化理解、という授業の中で、知識として学ぶだけでなく経験から学ぶことをさせたいと思っているので、また来年もお願いしたいです！

●申し込みから実施まで丁寧に対応して頂き、ありがとうございました。とてもわかりやすく生徒も楽しめる内容で、とても勉強になりました。来年度海外への修学旅行も企画しており、また講演などお願いできたらと思っています。



●星野さんの分かりやすい漫画のイラスト等を拝見しながら異文化を理解し、多様性や個性を受け入れることの重要性を我々教員側も痛感させられました。来年度も講演会の機会があれば是非お願いしたいと思っています。改めて、貴重なお時間を共有できたことに感謝致します。

●ネパールで現地活動されている貴重な話が聞けてよかったです。自己紹介が少し短めでもよかったかな、と思いました。

これまでの実施校一覧

(派遣授業を実施している2009年度から2024年度までの実績)

■県立高校

愛川高校	久里浜高校	ひばりが丘高校
麻生高校	港北高校	平塚江南高校
麻生総合高校	相模向陽館	平塚商業高校
厚木高校	相模原青陵高校	平塚中等教育学校
綾瀬西高校	座間総合高校	藤沢総合高校
有馬高校	七里ガ浜高校	保土ヶ谷高校
伊志田高校	松陽高校	三浦臨海高校
磯子高校	城郷高校	向の岡工業高校
岩戸高校	住吉高校	元石川高校
海老名高校	逗葉高校	弥栄高校
大楠高校	西湘高校	大和東高校
小田原高校	瀬谷西高校	百合丘高校
追浜高校	相武台高校	横須賀大津高校
神奈川総合高校	大師高校	横須賀高校
神奈川総合産業高校	多摩高校	横須賀南高校
金井高校	茅ヶ崎高校	横須賀明光高校
金沢総合高校	茅ヶ崎西浜高校	横浜旭陵高校
鎌倉高校	津久井高校	横浜国際高校
上鶴間高校	鶴見総合高校	横浜栄高校
川崎高校	鶴嶺高校	横浜翠嵐高校
川崎北高校	永谷高校	横浜清陵高校
川崎工科高等学校	新羽高校	横浜立野高校
川和高校	白山高校	横浜氷取沢高校
希望ヶ丘高校	柏陽高校	横浜平沼高校
霧が丘高校	橋本高校	横浜緑ヶ丘高校

(全日制、定時制校を含む)

■横浜市立

桜丘高校	みなと総合高校	横浜総合高校
東高校	南高校	横浜商業高等学校

■川崎市立

高津高校
橘高校

■横須賀市立

横須賀総合高校

■私立高校

アレセア湘南高等学校	英理女子学院高等学校	横浜翠陵高等学校
関東学院六浦中学校高等学校	自修館中等教育学校	横浜清風高等学校
慶應義塾高等学校	クラーク記念国際高校 横浜キャンパス	横浜創学館高等学校
向上高等学校	橘学園中学校・高等学校	横浜隼人中学・高校学校
相模女子大学高等部	森村学園高等部	横浜雙葉中学・高等学校
シュタイナー学園	横浜女学院中学校高等学校	横須賀学院高等学校
返子開成中学校・高等学校	神奈川学園中学・高等学校	

高校以外では神奈川県高等学校国際教育研究協議会主催のセミナー、教員研修などにも派遣した実績があります。

これまでの講師・ゲストの方々の繋がりのある国・地域一覧

アメリカ	コスタリカ	ネパール
イギリス	コロンビア	ノルウェー
イスラエル	コンゴ民主共和国	バングラデシュ
イタリア	シリア	フィリピン
イラン	シンガポール	フィンランド
インドネシア	スイス	ブラジル
ウクライナ	スウェーデン	フランス
ウズベキスタン	スーダン	ブルガリア
エジプト	スペイン	ベトナム
オーストラリア	スリランカ	ペルー
オランダ	セネガル	ポルトガル
ガーナ	タイ	香港
カザフスタン	台湾	マレーシア
カタール	中国	ミャンマー
カナダ	デンマーク	メキシコ
カメルーン	ドイツ	モンゴル
韓国	トルコ	ルワンダ
カンボジア	トルクメニスタン	ロシア

その他、韓国・朝鮮などに繋がりのある方、無国籍の方などもゲストとして高校生にお話ししていただきました。

講師紹介



1 やの 矢野 デイビッド

ミュージシャン、一般社団法人 Enije代表、明星大学客員講師

ガーナ出身。日本人の父とガーナ人の母との間に生まれ、ガーナで起きた暴動事件の影響により6歳から日本に移住。主な講演テーマは、アイデンティティ、マイノリティ、人種差別、国際交流、異文化共生など。



2 エンダ バスネット

翻訳・通訳者、国際理解講師

ネパール出身。留学生として2005年に来日。横浜国立大学・大学院で国際協力分野の博士課程単位を取得し、その後、国際理解、ジェンダー、キャリア教育や多文化共生などをテーマに高校や大学などにおいて日本語や英語で講演を多数行っている。



3 きん そん 金 成東

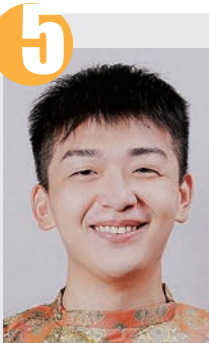
ワンダーファイ株式会社 事業開発ディレクター
神奈川県生まれ。神奈川朝鮮中高級学校、横浜国立大学工学部卒。大手総合商社に7年間在籍し、インフラ建設案件に関わり約20ヶ国を訪れる。その後、「違うことが面白い」と思える教育を実践すべく、教育スタートアップにてアプリ開発に関わる。



4 はやし 林 リダ

元川崎市立高校の理科教員

パキスタン人の父、台湾人の母を持つ日本生まれ日本育ちのムスリマ(イスラム教徒の女性)。大学では物理学を専攻。大学卒業後、川崎市の理科教員になり、現在は横浜マスコドを中心に日本で育つムスリムの子どもたちのための支援活動を行っている。



5 さ さ き せいしゅう 佐々木 聖壘

The Lit Zone Beside(リットゾーン) 共同代表、自治体職員

中国瀋陽市出身。中学校卒業後に来日。フリースクールに一年間通ったのち、高校、大学へと進学した。横浜市の公務員として勤務する傍ら、外国につながる子どもたちの進路や学習支援を行う「多文化ユースプロジェクト」のメンバーとして活躍中。



6 ビオリーナ ニコロバ

マーケティングプランナー、異文化理解講師

ヨーロッパ数か国に住んだ経験があり7か国語を操る。15歳で来日、高校と大学を卒業。日本の大手メーカーで8年間マーケティングに従事し、2019年に独立。現在は全国の地場産業マーケティングプランナーとして活躍中。



7 うらしはら ひろし 漆原 比呂志

一般社団法人JLMM 事務局長/NPO法人アルベなんみんセンター 地域連携コーディネーター

神奈川県生まれ。国際協力NGOのJLMMからカンボジアとベトナムに6年間派遣され、現在は事務局長として日本からの支援を行う。2011年から10年間、カトリック東京ボランティアセンターにて東日本震災の被災者支援にも関わり、現在に至る。



8 オクサーナ・ピスクノワ

語学講師/ウクライナ避難民支援者

ウクライナ・ドネツク州生まれ。1996年に来日。2014年のロシアによるクリミア・ドンバス侵攻後、ウクライナ文化を伝えるためイベントや講演会を実施。2022年のロシアによるウクライナ侵攻後は、ウクライナ支援に尽力し、現在は横浜市で避難民サポートを行っている。

財団で講師をお願いした方々等のインタビュー動画を
下のQRコードで読み取り、ご視聴いただけます。

講師の派遣にあたっては、左の方々に限定せず、
プログラムの希望を踏まえて候補を探します。

HPは「神奈川 高校派遣事業」で検索してください。



国際交流・多文化共生などの
活動をしている

高校生のみなさんの 活動をお手伝いします！

「外国人住民の方とコミュニケーションをとりたい」
「地域で活動している多文化共生の団体について知りたい」など、
部活で活動するにあたっての情報提供や
企画の立案など相談に乗りますので、ご連絡お待ちしております。
高校生などを対象としたセミナー情報については、
こちらのインスタをフォロー！



お問い合わせ・お申し込み

公益財団法人かながわ国際交流財団 高校派遣担当

住所：〒221-0835 神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2
かながわ県民センター13階 多言語支援センターかながわ内

電話：045-620-5045

E-mail: haken-2025@kifjp.org

WEB: www.kifjp.org/student/highschool

